

岩瀬文庫所蔵「清洲図」について —清須城下町の復元に関連して—

● 鈴木正貴

西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」は岡田啓（康礼）が天保年間末頃に模写した図で、清洲宿を含めた美濃街道を中心に描かれた図に清須城に関連する故地が書き込まれたものである。これについて、近世後期に制作された清洲に関する地誌類や絵図類などと比較・検討した。この結果、清須城に関する故地の調査は『張州府志』を嚆矢とし 19 世紀前半に研究が進んだことが判明したが、これらの記述は廃城から 200 年以上経過しており、大いに参考になるもののその信憑性にはやや疑問が残るものといえる。

1. はじめに（「清洲図」の紹介）

本稿では、西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」を紹介し、そこに描かれた内容について清須城下町の復元研究にどの程度活かすことができるかを、他の地誌類と絵図類と比較して検証する。

「清洲図」（図 1・2：なお翻刻・掲載は紙幅の都合上で一部を省略している）は尾張藩士である岡田啓（康礼）が天保年間末頃に模写した図である。岡田啓は尾張藩が編纂、深田正韶が撰集した『尾張志』61 巻を中尾義稲らとともに執筆した国学者でもある。「清洲図」は紙本彩色で、道路を黄色、川や水路などを青色、寺院は赤色に塗布され、神社には赤色で鳥居が描かれている。これらの表記は描画当時存在した施設と推定されるものであり、この点を重視すれば、画面中央を縦断する形で清洲宿を含む美濃街道を中心に描かれた「清洲図」と評価できよう（鈴木 2022）。

一方、これとは別に黒丸に続いて記された注記も多数存在している。城跡付近では「信長ノ居間」、「北矢倉」、「南矢倉」、「升形」などの注記があり、「外堀筋」、「内堀筋」、「土居筋」などについては破線で位置を示しているものも存在する。後で検証するように、こうした表記は岡田がかつて存在した清須城に関わる施設などの跡地（故地）として記したものと推測されるものである。

2. 清須城に関連の地誌・絵図との比較

そこで、西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」にある注記の意図を考察し、図の史料的な評価を確認するために、清須城と清須城下町に関わる他の文献や絵図類と対比することで、検討を進めたい。ここで取り上げる史料は 1 『駒井日記』文禄三年四月三日条（以下『駒井日記』と略す）、2 『春日井郡清須村古城絵図』（以下『古城絵図』と略す）、3 『張州府志』「清洲志」（以下『張州府志』と略す）、4 『張州府志』「清洲之図」（以下『張州府志図』と略す）、5 『尾張徇行記』第 5 巻「清須」（以下『徇行記』と略す）、6 『清洲志』巻之一（以下『清洲志』と略す）、7 『清洲志』「清洲壤地図」（以下『清洲志図』と略す）、8 『尾張志』「清須の部」（以下『尾張志』と略す）、10 『清洲村絵図面』、11 『春日井郡清洲村絵図』史料番号八六一二（以下『村絵図』と略す）、12 『清洲町史』「城下町の構成」（以下『清洲町史』と略す）の 11 種である。これに問題の 9 西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」（以下『清洲図』と略す）を合わせた 12 種の史料について、記述の有無を一覧表にまとめた（表 1～6）。

（1）『駒井日記』文禄三年四月三日条

『駒井日記』は豊臣秀次の右筆駒井中務小輔重勝の日記で、文禄 2 年閏 9 月から文禄 4 年 4 月までの 17 巻があり、その一部が現存する。問題となる部分は、文禄三年四月一日条で、豊臣秀吉が駒井重勝に尾張国清須町の町人を帰村さ

せるよう命じ、同四月三日条で、豊臣秀次から三位法印常閑・清須町奉行三輪五右衛門と池田丹後入道と日比野下野守にその命令が伝えられ、尾州在々所々より罷り出た町人が3名の町奉行の担当別に書き上げられた部分であり、これにより、文禄3（1594）年に清須城下町に存在した町名が判明する。ただし、これらが清須城下町にある全ての町名ではないことに注意しておきたい。一覧には愛知県2011『愛知県史資料編13 織豊3』から各町の担当（三輪五右衛門は「三輪」、池田丹後入道は「池田」、日比野下野守は「日比野」と略す）と帰村させるべき軒数を記載した。

（2）『春日井郡清須村古城絵図』

名古屋市蓬左文庫に所蔵される本図は、尾張藩が1650年頃に制作した絵図群のうちのひとつで、その時点で残存していた清須城の縄張りを図化した絵図である（遠藤他1991）。清須城下全体の縄張りが描かれ、空堀、水堀、土塁などが黄色や青色で表現されるいわゆる城絵図である。絵図に記された注記の大部分は距離や高さ、深さなど大きさを示すものであるが、場所については、清須本町、清須北市場町、清須神明町、朝日村、野田町、清須川、五条橋、本丸、天守、屋くらたい、樹木屋敷、御園神明、神明、山王社、愛宕の記述が存在する。

（3）『張州府志』「清洲志」

『張州府志』は尾張藩が最初に編纂した尾張国の地誌で、全30巻25冊で構成される。3代藩主徳川綱誠の治世で編纂が計画されたが綱誠の急逝により作業は中断、8代藩主徳川宗勝が松平君山に編纂を命じて1752年に完成された。なお、清須本町に所在する久証寺の僧高木大度も編者に名を連ねている。巻十に「清洲志」があり、建置沿革、村名、坊巷、津梁、土産、人物、神祠、寺観、宅址の項目で構成される。これらの項目のうち、一覧には清須城下町の構造に関わるものとして村名、坊巷、津梁、神祠、寺観、宅址を取り上げる。坊巷の項目では「今尚存矣」と「今皆為田圃尚存其名」の区別がある。一覧作成に際しては、愛知県郷土資料刊行会1974『愛知県郷土資料叢書第19集 張州府志（全）』を用いた。

（4）『張州府志』「清洲之図」

『張州府志』には付録として絵図類がまとめら

れており、その中の一つに「清洲之図」がある。本図では、冒頭に黒丸を付す注記と付さない注記の2種があり、黒丸を付す注記が清須城時代に関連するもの、付さない注記が現在ある施設に関するものという区別があるように推定される。

（5）『尾張徇行記』第5巻「清須」

『尾張徇行記』は、樋口好古が寛政4（1792）年から文政5（1822）年にまとめた私撰地誌である。樋口は古くは勘定方並手代で、寛政時代には御国方吟味役となり、司農の任務の完遂に努力し領内を周り村々の様子を把握し、これらを記録にまとめた。第5巻に清洲御代官支配所之部があり、冒頭に清須が掲載されている。清須の項では、石高などの記載の後に「一此村ハ城府ノ址也」で始まる部分（204頁）があり、府内に属する町や田面の字に残る町名と屋敷が記述される。一覧ではこの記述を記載した。その後には『張州府志』の記述がそのまま転載されており、これは一覧からは除外した。名古屋市教育委員会1966『名古屋叢書続編第5巻 尾張徇行記（2）』を用いた。

（6）『清洲志』巻之一

『清洲志』は、武田載周により文政9（1826）年頃に完成された清洲に関する地誌である。武田載周は清洲の文化人の先駆者武田麒六の三男であり、丹羽盤桓子から漢籍と書法を学んだ。本書はこれまでの尾張の地誌・記録・文芸作品を渉猟して清洲に関する記述を整理したもので（清洲町1969）、全5巻からなる。巻之一是城墟、宅趾、旧号、壊地で構成される。宅趾の項目では11の屋鋪跡について、旧号の項目では68の町や寺などの諸施設の跡地について記され、その後に清洲から名古屋に移転した寺社や町（○〇陌と表記）などが列挙されている。旧号で示された記述は清須における位置情報がある程度判明したものと理解される反面、後者は単純に清須から名古屋に移転した伝承があるものとみられる。国文学研究資料館『国書データベース』より引用した（書誌ID：200018482、種別：国文研蔵を閲覧）。

（7）『清洲志』「清洲壊地図」

『清洲志』の写本の一つに「清洲壊地図」が付図としてあり、図の一部に「武田載周が文政9

(1826) 年 10 月に識す」と記述がある。墨書により図と注記が記され、冒頭に白丸を付す注記と付さない注記の 2 種が確認される。白丸を付す注記が清須城時代に関連するものと思われる。

(8) 『尾張志』「清須の部」

『尾張志』は天保 15 (1844) 年に尾張藩が編纂した尾張国の地誌で、深田正韶が撰集した。『張州府志』をもとに再調査を行って改撰し、名古屋城下、熱田、各郡別に、境域沿革、郷村、人物、物産、神社、寺院、名所、旧跡などが記載される。付図は小田切春江が担当したという。全 61 巻(序巻と本巻 60 巻)で構成されており、巻之 35 に「清須の部」がある。内容は、町の名、川橋杵の部、土産、神社、寺院、宅跡并寺院の跡の順に記述されている。これらの項目のうち、一覧には土産を除く項目を取り上げる。町名については、町の名を示すもの(一覧に「町の名」と表記)と、名を残すのみのもの(一覧に「名のみ」と表記)に区別して記述されている。愛知県図書館蔵の資料を用い、愛知県図書館ホームページ貴重本デジタルライブラリーを閲覧し引用した。

(9) 西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」

「清洲図」の来歴についてはすでに記述したとおりである。なお、写真は、西尾市岩瀬文庫 2022 『西尾市岩瀬文庫企画展 古城一失われた城の記録―』にその一部が掲載されている。

(10) 『清洲村絵図面』

『清洲村絵図面』は第 1 期の『近世絵図地図集成』第 5 巻尾張 [1] 095 に掲載された図面で、弘化 4 (1847) 年頃に小田切春江が制作したものである。縦 69cm、横 125cm の図面で愛知県図書館が所蔵するという。近世絵図地図研究会編、本田豊解説 1999 『近世絵図地図集成 第 1 期第 5 巻尾張 [1]』霞ヶ関出版 を引用した。

(11) 『春日井郡清洲村絵図』史料番号八六一二

尾張藩は領内の各村に命じて村絵図を作成、提出させている。現在、(財)徳川黎明会徳川林政史研究所には 3 点の『春日井郡清洲村絵図』が伝来しており、『新川町史』には史料番号八六一二が掲載されている。制作年代は不明で「百八十」の貼紙がある。村絵図に関する触書から、村絵図には 1 御蔵入本田新田并に給地地境や 2 村境其外寺院社地、3 川々用悪水を調べ描

画するよう命じられている。『張州府志図』、『清洲志図』、『清洲村絵図面』などとは相違して清須城に関わる旧地の記述はほとんど存在しない。しかし、字名などとして清須城に関連する名前が確実に残っているものがあり、これを参考として一覧に掲載した。清須市 2007 『新川町史 資料編 2 別冊 絵図・地図編』を用いた。

(12) 『清洲町史』「城下町の構成」

『清洲町史』には、「第三清洲の城下町」「二城下町の構成」の項で、城下町期に存在したと思われる町名や屋敷名および寺社名などを検討し、「図-1 清洲城下町推定図(慶長年間)」と「図-2 清洲城下町屋敷・寺院位置推定図」が掲載されている。これまで検討してきた近世地誌類には存在しない屋敷名が複数存在しており、これらはおそらく林良泰の『清洲雑誌稿』の記述を参照したものと思われるが、この点は筆者としては今のところ検証できていない。一覧表には、「図-1 清洲城下町推定図(慶長年間)」に掲載されたものには「1」、「図-2 清洲城下町屋敷・寺院位置推定図」に掲載されたものには「2」と付した。清洲町 1969 『清洲町史』。

3. 記載内容の検討

12 種の地誌・絵図類の比較検討を行った結果、気づいた点を列挙する。

(1) 『張州府志図』、『清洲志図』、『清洲村絵図面』、『清洲図』の 4 種の絵図は、縄張り図としてみた場合、堀や土居が破線で表現されている程度にとどまっており、城郭の縄張りを描いたいわゆる城絵図ではない。しかし、清須城に関連する施設や町名の位置情報を記載している点を重視すれば、『村絵図』とも大きく異なっており、城下町図の一種と見做せるものと思われる。

(2) 地誌類および絵図類は、制作年が新しいほど情報量が増加する傾向があり、古い作品を参考にして制作されていると思われる。しかし、それでも『張州府志図』、『清洲志図』、『清洲村絵図面』、『清洲図』の 4 種の絵図で大道寺宅(大道寺・大道寺屋敷など)や牢屋敷などのいくつかの項目では、位置情報が大きく異なるものがある。これらはおそらく文字情報を図化する際

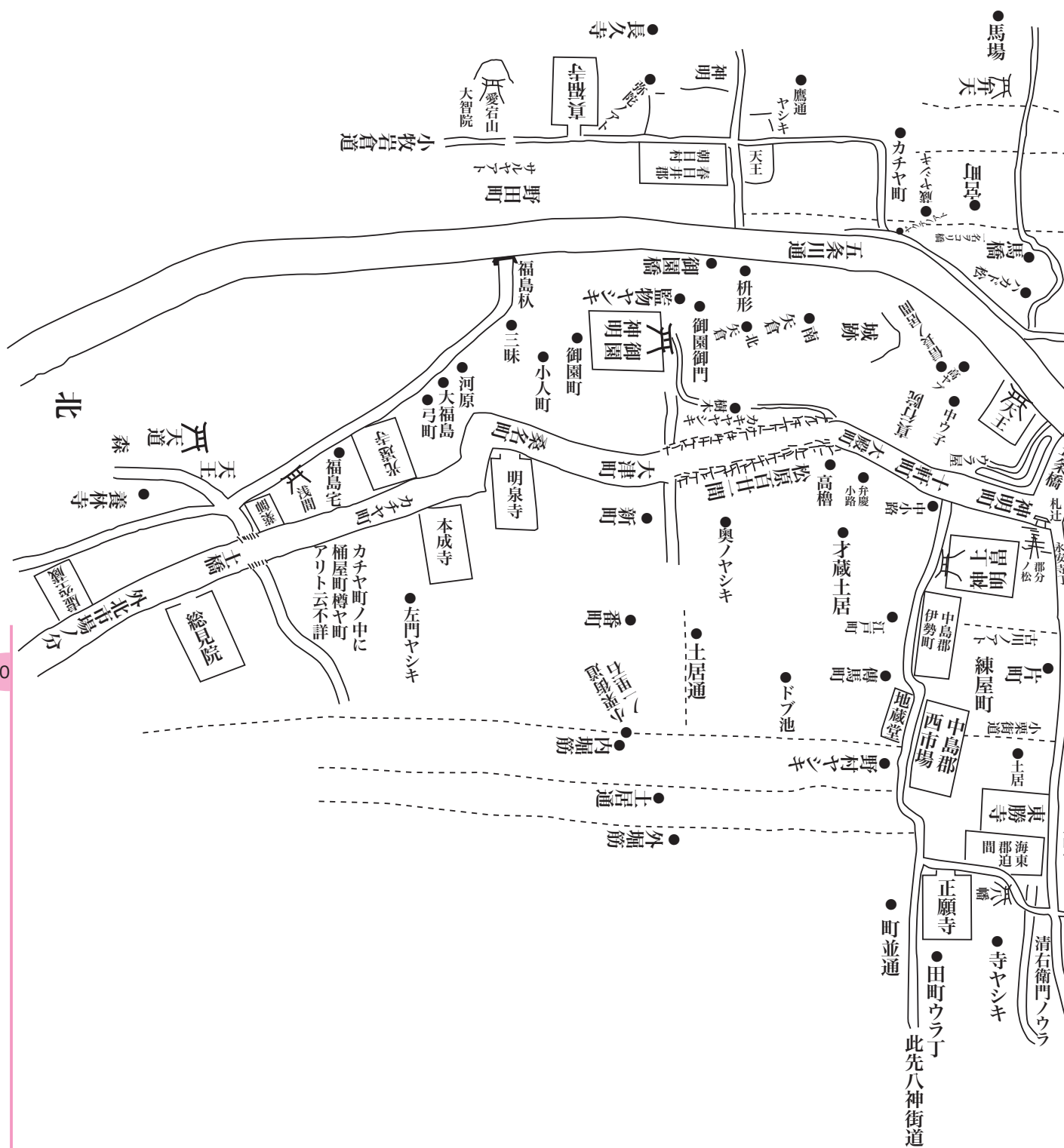


図 1 西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」の翻刻 (1) (一部省略)



に生じた誤差と推定され、情報の信憑性にやや欠けるものと考えられる。

(3)江戸時代の地誌類からみる町名の記述は、『駒井日記』文禄三年四月三日条の町名の記述と対比すると、約半数は位置を追跡できるものが、全体として意外と合わないと感じられる。『駒井日記』の史料の性格からみて町名が網羅的に記されていない点はやむを得ないが、『駒井日記』に記された町名のうち中市場、上島町(上下)、片新町、中須賀口、いくみ浦町、順礼池町、呉服町、本町中町、名護屋町、かなや町、勝万寺町、本町上ノ切、田町、下町桶屋町、北市場下町分、見その新町、山田町、ひさや町、大工町、入苔町については、その後の地誌編纂事業では追跡できていないものであり、その数が多いことは注意すべきである。『張州府志』は廃城後約140年、『尾張徇行記』以降は廃城後200年以上経過しており、その間に失われた情報はかなり大きいものと推定できる。

(4)西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」では、城跡付近で「信長ノ居間」、「北矢倉」、「南矢倉」、「升形」など魅力的な記述が存在するが、実際に発掘調査や比較的信頼できる『清須村古城絵図』などで確認されている縄張りとは対比すると、うまく対応していない。おそらく『信長公記』などの記述をみて制作者が考察して描いたものと思われる。

(5)一方、地名などで追跡できる町名や「カナクソ山」などの金属製品関連の職人が存在した可能性が考えられる表記は、やはり取り扱いに注意すべきではあるが、参考になる記述である。天保15(1844)年に尾張志御用として村方より提出された書上の控には、鍋屋分の古跡について「先年鍋屋町ニ■いもじ屋御座候処、兼くそ山ヶ所御座候」とある(新川町2007)。実際、北側の「カナクソ山」付近での発掘調査では鍛冶関連遺物などが多量に出土しており(鈴木編2013)、注目できる。

(6)地名や伝承の多様さから、さまざまな職種の職人町が存在したと多方面から商職人が清須に移り来たことが明らかであり、この点はもっと強調されるべきものと思われる。多様な職人が存在したためか、被差別部落に関連する可能性のある記述がいくつか確認される。本

田豊によれば、牢屋敷の記述から「その牢屋敷で働いていた非人の人たちがいた」可能性を指摘している(本田2005、147頁)。また、ある地区について、そこは「その昔、清洲城に織田信長が居城していた当時、下駄、足袋、草履などの製作、城主のために肉類料理をする者五人を」「現在地に住ませた」という伝承などを紹介している(本田2005、65頁)。別の地区では「清洲の殿様のために馬具・金具を作った」口伝もあるという(本田2005、69頁)。このように、清須はその城下町内外に多様な商職人が集まった大都市であったことを改めて確認できよう。

＜日本は憲法で基本的人権が保障されており、職業や出自などによるいわれのない差別はこの人権を侵害するものである。部落差別問題は深刻な社会問題の一つであり、この払拭のためには問題に対し正しく理解して深い認識が必要である。本稿ではこの認識に基づき、歴史的な理解を正しく深めるため、関連する事項を考究した。筆者は人々の心に潜む差別意識の払拭を願ってやまない立場である。＞

4. まとめ(「清洲図」の紹介)

西尾市岩瀬文庫所蔵「清洲図」は、岡田がかつて存在した清須城に関わる施設などの跡地(故地)を記録したもので、「推定城下町図」と評価できるものである。そして、他の江戸時代に制作された地誌類と絵図類と比較することによって、江戸時代後期の清須城に関する研究の進展と顕彰のあり様が明らかになると思われる。この点は今後の更なる分析が必要となろう。また、今回の検証の結果、戦国織豊期の清須城の実態を明らかにするには、これらの地誌や地図類はある程度は参考になるものの、信憑性に問題があつて全面的に信用することはできないと考えられる。

最後に、本稿を作成するにあたり、「清洲図」の存在をご教示いただいた西尾市教育委員会浅岡優氏、「清洲図」の翻刻に際して校閲いただいた上野加耶子氏、さまざまな情報提供をいただいた柴垣哲彦氏には、記して感謝申し上げる。

表 1 清須城下町関連の町名一覧 (1)

	駒井日記	古城絵図	張州府志	張州府志図	徇行記	清洲志	清洲壕地図	尾張志	清洲図	清洲村絵図面	清洲村絵図	清洲町史
京町	三輪40軒		尚称其名	●京町	○A	京町,京陌	○京丁	名のみ	●京町	京町	字京町	●1
長者町	三輪95軒					長者町	○長者丁	名のみ	●長者町	長者町	字長者町	●1
本町	三輪20軒	清須本町	今尚存矣	本町		本陌	本町	町の名	本町	本町		●1
中市場	三輪57軒					中市場陌						
竹屋町	三輪46軒					竹屋町	○竹や丁	名のみ	●竹屋町	竹屋町		●1
上島町下	三輪36軒					上島陌, 上島町						●1
片新町	三輪15軒											
はりや町	三輪38軒					針屋町, 針屋陌	○針屋丁	名のみ 針屋町	●針屋町	針屋町		●1
中須賀口	三輪32軒					中須賀陌						
上島町上	三輪61軒					上島陌						
いくゑ浦町	三輪98軒					鯛浦町						
順礼池町	三輪98軒											●1
呉服町	三輪68軒					呉服陌, 呉服町						
本町中町	三輪22軒											
寺野町	三輪40軒			寺野分	○B					寺野分		●1
名護屋町	三輪69軒											
かなや町	三輪22軒											
勝万寺町	三輪64軒					正万寺陌						
本町上ノ分	三輪135軒											
下町	三輪55軒					下町	○下丁	名のみ	●下ゲマチ	下町	字下町	●1
永安寺町	池田84軒		尚称其名	永安寺町	○A	永安寺陌, 永安寺町	永安寺町	名のみ	永安寺丁	永安寺町		●1
伊勢町	池田49軒		尚称其名	伊勢町分	○C	伊勢陌, 伊勢町	伊勢町		伊勢町	伊勢町	伊勢町	●1
ねりや町	池田65軒					ねり屋町, 煉屋陌, 練屋町		名のみ 練屋町	練屋町	練屋町	字ねりや町	●1
田町	池田78軒					田町						●1
大津町	池田57軒					大津陌	大津丁	町の名	大津町	大津町		●1
桑名町	池田54軒					桑名陌, 桑名町	桑名丁	町の名	桑名町	桑名町		●1
新町	池田136軒					新町	○新丁	名のみ	●新町	新町	字新町	●1
中小路町	池田22軒			●中小路筋		中小路	○中小ぢ	名のみ 中小路	●中小路	中小路	字川田中小 路	●1
北市場桶屋町	池田26軒					桶屋町, 桶屋陌	ヲケヤ丁		桶屋町			●1
下町桶屋町	池田32軒											
鍛冶屋町分 (北市場)	池田95軒					鍛冶屋町	かぢや丁	町の名	カチヤ町	鍛冶屋町		●1
北市場下町分	池田27軒											
見その新町	池田53軒											
山田町	池田65軒					山田陌						
宮町	日比野85軒		尚称其名	●宮町	○A	宮町	□宮丁	名のみ	●宮町	宮町		●1
こまき町	日比野105 軒					小牧陌	小牧町	名のみ 小牧町	小マキ丁一名 ハイトリ丁	小牧町		●1
北市場	日比野49軒	清須北市 場町		北市場村							北市場村	●1
ひさや町	日比野101 軒											
鍛冶屋町 (野田)	日比野38軒					鍛冶屋町	○かぢや丁		●カチヤ町	鍛冶屋町		●1
山田町	日比野35軒					山田陌						
みその町	日比野155 軒					御園町, 御園陌	○御園丁	名のみ 御園町	●御園町	御園町	字御園	●1
長島町	日比野53軒					長島陌, 長島町						
入芒町	日比野56軒											
新町	日比野98軒					新町	○新丁	名のみ	新町	新町	字新町	●1
神明町		清須神明 町					神明町	町の名	神明町	神明町		

表2 清須城下町関連の町名一覧(2)

	駒井日記	古城絵図	張州府志	張州府志図	徇行記	清洲志	清洲壊地図	尾張志	清洲図	清洲村絵図面	清洲村絵図	清洲町史
朝日村		朝日村		朝日村	○B	朝日陌, 朝日町	朝日村		朝日村	朝日分		●1朝日 町
野田町		野田町		野田町	○C	野田町			野田町	野田町		●1
須賀口村			村名									
市場村			村名		○C				●		市場村	
六角堂村			村名									
狹間村			村名	迫間村	○B	迫間町	狹間村		迫間	迫間分		●1
土田村			村名	土田分	○B		土田村			土田分		●1
田中町			今尚存矣	田中町	○B		田中町	町の名	田中町	田中町	田中町	
宿町			今尚存矣									
外町			今尚存矣		○C		外町	町の名	外町	外町		●1
大殿町			尚称其名	大殿町	○A	大殿町	○大トノノ アト	町の名	大殿町	大殿町		
伝馬町			尚称其名	●伝馬町	○A	伝馬町, 伝馬陌	○伝馬丁	名のみ	●伝馬町	伝馬町	字伝馬町	●1上下 伝馬町
江戸町			尚称其名	●江戸町筋	○A	江戸町	○江戸丁	名のみ	●江戸町	江戸町	字江戸町	●1
弓町			尚称其名		○A	弓町	○弓丁	名のみ	●弓町	弓町	字弓町	●1
西市場				西市場分	○B		西市場		西市場			
清洲宿				清洲宿								
鍋屋				鍋屋分	○C	鍋屋陌			鍋屋			●1
小塚				小塚分	○C	小塚陌						●1
内須賀口				内須ヶ口谷	○B							●1
番町					○A 大番小番	番町	○番丁	名のみ	●番町	番町	字上番町他	●1
薦僧町						薦僧町	コモ僧丁ノア ト					
弁慶小路						弁慶小路	○弁慶小路	名のみ	●弁慶小路	弁慶小路		
樽屋町						樽屋町	タルヤ丁		樽屋町			●1
小人町						小人町	○小人丁	名のみ	●小人町	小人町		●1
高下町						高下町	○高ゲ丁	名のみ 高毛町	●高ゲマチ	高毛町		●1
船入通り						船入陌	○船入通り		●船入通	船入通		●1船入 町
田町裏町						田町裏町	○田町ウラ町		●田町ウラ町	田町裏		●1浦町
武兵陌						武兵陌						
田陌						田陌						
福井陌						福井陌						
富田陌						富田陌						
玉屋陌						玉屋陌						
鉄砲陌						鉄砲陌, 鉄砲町						
上長者陌						上長者陌						
下長者陌						下長者陌						
小桜陌						小桜陌						
島田陌						島田陌						
西鍛冶陌						西鍛冶陌						
伊倉陌						伊倉陌						
米倉陌						米倉陌						
皆戸陌						皆戸陌						
大船陌						大船陌						
塩陌						塩陌						
堀江陌						堀江陌						
小船陌						小船陌						
戸田陌						戸田陌						
七間陌						七間陌, 七間町						
常盤陌						常盤陌						
笹屋陌						笹屋陌						
瀬戸物陌						瀬戸物陌, 瀬戸物町						
関鍛冶陌						関鍛冶陌, 関鍛冶町						
吉田陌						吉田陌						
久屋陌						久屋陌						

表3 清須城下町関連の町名一覧 (3)

	駒井日記	古城絵図	張州府志	張州府志図	徇行記	清洲志	清洲城地図	尾張志	清洲図	清洲村絵図面	清洲村絵図	清洲町史
上田陌						上田陌						
諸陌						諸陌						
和泉陌						和泉陌						
五条陌						五条陌						
小田原陌						小田原陌						
万屋陌						万屋陌						
官陌						官陌						
駿河陌						駿河陌						
袋陌						袋陌						
元重陌						元重陌						
三ッ蔵						三ッ蔵						
干物町						干物町						
名古屋町						名古屋町						
下小牧町						下小牧町						
須ヶ口町						須ヶ口町						
屋里町						屋里町						
袋之内						袋之内						
森重町						森重町						
料理人町						料理人町						
正願寺町						正願寺町						
寺町						寺町						
宮ノ町						宮ノ町						
材木町 (本町)						材木町			●材木町	●		●1
材木町 (鎌屋町)						下材木陌、 上材木陌						●1
片町						片町		名のみ	●片町			
小市場						小市場町						●1
殿町						殿陌						●1
外北市場						外北市場			外北市場	外北市場		
十軒町						十軒町	町の名		十軒町	十間町		
町並通						○町ナミ通			●町並通	町並通		
寺ヤシキ						○寺ヤシキ			●寺ヤシキ			●1
穢多村						△穢多村			△穢多村	穢多村		
法華寺町						○法華寺			●法華寺	法華寺町		●12
神明ノ辻						神明ノ辻				神明ノ辻		
遊女町の跡								名のみ	●			
天王町										天王町		
片町 (南)										片町		●1
裏町										裏町		
鷹匠町												●1
西小路												●1
寺小路												●1
東寺小路												●1

『張州府志』の項には「今尚存矣」と「今皆為田圃尚存其名」の区別を記入した。

『徇行記』の項には A：田面ノ字二町ノ名遣リ、B：元本郷アレ共今ノ分郷文ノ地ハ府内ニ属シタル、C：モト町ノ名ノ遺レルの区別を記入した。

『清洲町史』の項には 1：清洲城下町推定図（慶長年間）、2：清洲城下町屋敷・寺院位置推定図の区別を記入した。

引用・参考文献

愛知県 2011 『愛知県史資料編 13 織豊 3』

愛知県郷土資料刊行会 1974 『愛知県郷土資料叢書第 19 集 張州府志 (全)』

遠藤才文・川井啓介・鈴木正貴 1992 「尾張国城絵図考」『愛知県中世城館分布調査報告書 (I) 尾張地区』愛知県教育委員会
清須市 2007 『新川町史 資料編 2 別冊 絵図・地図編』

清洲町 1969 『清洲町史』

近世絵図地図研究会編、本田豊解説 1999 『近世絵図地図集成 第 1 期第 5 巻尾張 [1]』霞ヶ関出版

鈴木正貴編 2013 『清洲城下町遺跡XI』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 183 集

鈴木正貴 2022 「新発見！その 2 戦国時代の清須城の痕跡を探る『清洲図』『西尾市岩瀬文庫企画展 古城一失われた城の記録一』

名古屋市教育局 1966 『名古屋叢書続編第 5 巻 尾張徇行記 (2)』

本田豊 2005 『戦国大名と賤民一信長・秀吉・家康と部落形成一』現代書館

表4 清須城下町関連施設等名称一覧(1)

	古城絵図	張州府志	張州府志図	徇行記	清洲志	清洲壕地図	尾張志	清洲図	清洲村絵図 面	清洲村絵図	清洲町史
古城・城跡	本丸		古城			城墟		城跡	城址	古城	
天守台	天守臺										
屋くらたい	屋くらたい										
北矢倉		●北矢倉			北櫓	□北櫓		●北矢倉	北櫓	宇矢倉	●2
南矢倉					南櫓	□南櫓		●南矢倉	南櫓		●2
升形					升形	□升形		●升形	升形		
信長ノ居間								●信長ノ居間			
土橋(北市場)			土橋			土ばし		土橋			
御園御門					御園御門	□ミソノ御門		●御園御門	御園御門		
本町御門					本町御門	□本町御門跡		本町御門ノアト	本町御門		
高櫓(大殿付近)						□高櫓		●高櫓	高櫓		
矢倉(本町)								●矢倉	櫓	矢倉之内	●2櫓
馬場(田中町)					馬場	○馬バ		●馬場			
馬場(外町)					馬場			●馬場			
片端(土田)					片端		片端	●ムカシノ片端			
片端(寺野)					片端		片端	●片端	片端		
丸ノ内(南)			丸之内						丸ノ内		
丸ノ内(田中町)					丸ノ内	○丸ノ内ト云		●丸ノ内	丸ノ内		●1
才蔵土居		●才蔵		才蔵土居	○才蔵土居			●才蔵土居	才蔵土居		●2
中畝				中うね	○中ウ子	中うね		●中ウ子	中畝	字中くね	
土居(西市場)				土居						字土井	
土居(小栗街道)								●土居		字土井	
高藪(古城付近)					高藪	○高ヤブ		●高ヤブ	高藪		
高藪(迫間付近)					高藪	○高ヤブ		●高ヤブ	高藪		
高藪(寺野付近)						○高ヤブ		●高ヤブ	高藪		
土居筋(西)			土井筋		土居	○土居通り		●土居通			
内堀筋(西)					内堀外堀	○内堀すぢ		●内堀筋			
外堀筋(西)					内堀外堀	○外堀すぢ		●外堀筋			
土居筋(東)			●土井		土居	○土井すぢ		●土居筋		字土井	
内堀筋(東)			内堀筋		内堀外堀	○内堀すぢ		●内堀筋			
外堀筋(東)			外堀筋		内堀外堀	○外堀すぢ		●外堀筋			
外堀筋(南)						○外ボリスヂ		●外堀筋			
清須川	清須川				於曾那川五條川清洲川		五條川	五條川通		五条川通り	
五条橋	五条橋	五条橋	五条橋		五条橋	五条橋	五条橋	五条橋		五条橋	
御園橋					御園橋			●御園橋	御園橋		
馬橋					馬橋			●馬橋			
順礼橋					順礼橋	順礼橋		順礼橋	順禮橋		
樹木屋敷	樹木屋敷	柿屋宅	御樹木屋舗		柿屋宅	樹木	柿屋宅跡	カキヤヤシキ●樹木	御樹木ヤシキ	樹木	
福嶋宅		福嶋宅			福嶋宅	○福島宅	福島宅跡	●福島宅	■福島屋舗		
監物宅		監物宅	●監物屋舗	福島監物	監物宅	○監物屋敷	監物宅跡	●監物ヤシキ	■監物屋敷		●2
大道寺宅		大道寺宅	●大道寺	大道寺	大道寺宅	○大道寺	大道寺宅跡	●大道寺ヤシキ	■大道寺屋敷	字大道寺	●2
左門宅		左門宅	●左門屋舗	左門	左門宅	○左門屋敷	左門宅跡	●左門ヤシキ	左門ヤシキ		●2
野村屋敷			●野村屋舗	野村	野村屋敷		野村屋敷	●野村ヤシキ	■野村屋敷		●2
蔵屋敷			●御蔵屋舗		蔵屋敷	○蔵やしき		●蔵ヤシキ	▲蔵屋敷		
牢屋敷			●牢屋舗		牢屋敷			●牢屋シキ	牢屋敷		●2
中村対馬守宅					中村對馬守宅	○つしま殿	對馬殿	●ツシマ殿 中村ツシマノ宅			●2
奥野屋敷					奥野屋敷	○奥ノ屋敷		●奥ノヤシキ	■奥野屋敷		●2
浜島屋敷					濱島屋敷	○濱島	濱島屋敷	●濱島ヤシキ			●2
三八屋敷					三八屋敷	○三八屋敷	三八屋敷	●三八ヤシキ	■三八屋敷		●2
浅井屋敷						○アザ井屋シキ	浅井屋敷	●アサイヤシキ 樹木	■浅井屋敷		●2
鷹匠屋敷					鷹匠屋敷	○鷹匠屋敷		●鷹匠ヤシキ	▲鷹匠ヤシキ		●2
寺屋敷					寺屋敷	○寺屋しき			寺ヤシキ		
遠山伝十郎宅					遠山傳十郎宅			遠山傳十郎宅			●2
清涼寺屋敷					清涼寺屋敷						
浅野屋敷跡							浅野屋敷跡				

表5 清須城下町関連施設等名称一覧(2)

	古城絵図	張州府志	張州府志図	徇行記	清洲志	清洲壕地図	尾張志	清洲図	清洲村絵図 面	清洲村絵図	清洲町史
浅野屋敷跡							浅野屋敷跡				
一無ヤシキ									■一無ヤシ キ		
御餌差ヤシキ									▲御餌差ヤ シキ		●2
朝日様御屋敷跡									■朝日様御 屋敷跡		
高屋敷									高屋敷		
伊織屋敷									■伊織屋敷	宇いおり	
ナヘヤヤシキ										ナヘヤヤシキ	
稲留一夢屋敷址											●2
兼松又兵衛屋敷址											●2
釜師忠三郎宅址											●2
文右衛門屋敷址											●2
主膳屋敷址											●2
沢井屋敷址											●2
民部屋敷址											●2
幸右屋敷址											●2
森田弥右衛門屋敷址											●2
玄界					玄界	○げんかい		●ゲンカイ	玄界	宇玄界	●1
清右衛門ノウラ								清右衛門ノウラ	清右裏		
猿屋跡								サルヤアト	猿屋跡		●2サルヤシキ
高札(清涼寺)			高札			御札ノ辻		札辻	御触札場	御高札	
高札(丸の内)			高札			御札ノ辻		札辻			
本陣			本陣								
大門			字大門								
富士見山			富士見山								
大福島			●福島		大福島	○大福島		●大福島	大福島	福島	
松原(古城付近)						松原		松原			
松原(本町付近)						松原		(絵のみ)			
御沙園					御沙園	○御舎園		●御沙園	▲御茶園		
御茶園									▲御茶園		
墓所松					墓所松			●ハカド松			
御船渡					御船渡						
金クソ					金くそ山	カナクソ山		金クソ	金山		
サガリ松アト								サガリ松アト			
金くそ山					金くそ山	金くそ山		金クソ山	金クソ山	カナクソヤマ	
郡分の松					郡分の松			郡分ノ松	郡分ノ松		
一里石					一里石				一里石		
河原					河原				河原		
福島秋						○福島秋	福島秋	福島秋	福島秋		
三昧(福島秋付近)						□三昧		●三昧			
古川ノアト(練屋)						○古川通り		古川ノアト		古川新田	
ドブ池(伝馬町)						●ドブ池		●ドブ池	ドブ池		
ドブ池(東勝寺)									ドブ池		
ヤクテノアト								●ヤクテノアト			
一名ヲコリ橋								一名ヲコリ橋	ヲコリバシ		
ガイロ田								●ガイロ田			
松ノ井ド								松ノ井ド			
鳥居崎									鳥居崎		
池ノ跡(朝日)									池ノ跡		
検見塚					検見塚				ケンミ塚		
馬場裏									馬場裏		
茶古山									茶古山		
大池									大池	池	
ハス池									ハス池		
砂河原						○スナ河原			砂河原		
河原						○河原		●河原			
小牧街道			小牧海道			小牧岩倉へ 至る		小牧岩倉道	小牧街道	小牧海道	
八神街道						八神街道		八神街道	八神海道	八神海道	
此先八神街道出						此先八神街 道		此先八神街道	此先八神街 道へ出		
寺町通						○寺町通り		●寺町通	寺町通り		●1

表6 清須城下町関連寺社名一覧

	古城 絵図	張州 府志	張州 府志 図	清洲 志	清洲 城地 図	尾張 志	清洲 図	清洲 村絵 図面	村 絵図	清洲 町史		古城 絵図	張州 府志	張州 府志 図	清洲 志	清洲 城地 図	尾張 志	清洲 図	清洲 村絵 図面	村 絵図	清洲 町史	
御園神明	●	●	●		●	●	●	●	●	1	正覚寺		●	●		●	●	●	●	●	●	2
上皇神明社	●	●	●		●	●	●	●	●	1	浄休寺		●	●		●	●	●	●	●	●	
山王社	●	●	●		●	●		●	●	1	久證寺		●	●		●	●	●	●	●	●	
愛宕	●		●	●	●		●	●			明泉寺		●			●	●	●	●	●	●	
天神（川上）			●		●		●	●	●		本成寺		●			●	●	●	●	●	●	
庚申堂			●		●		●	●	●		光遠寺		●			●	●	●	●	●	●	
白山				●	●		●	●			大吉寺			●		●		●	●	●	2	
天道社（北市場）					●				●		大光院跡			●	●	●	●	●	●			
浅間社（北市場）					●				●		西蓮寺			●					●		2	
天神（土田）					●		●	●	●		長久寺跡			●		●	●	●	●		2	
天王（土田）					●		●	●	●		聖徳寺				●	●	●	●	●		2	
水天社（小塚）					●		●	●	●		永安寺跡				●	●	●				2	
稲荷（上条）					●		●	●			養林寺跡				●	●		●	●		2	
秋葉（清涼寺）					●		●				三十三間堂				●	●			●			
井財天（朝日）					●			●	●		弥陀の跡				●	●		●	●			
天王（朝日）					●		●	●	●		梅屋寺、常德寺、照蓮寺、泰増寺、 法応寺、浄念寺、宝泉寺、大光寺、 久宝寺、宝泉院、功德院、松寿院、 東蓮寺、天寧寺、安用寺、来迎寺				●						2	
井天					●		●	●	●		興善寺、薬師寺、高岳院、法善寺、 願証寺、含笑寺、貞松院、高願寺、 龍雲寺、金仙寺、建昌寺、本要寺、 正福寺、安齋院、安齋院、長栄寺、 広徳寺、光明寺、千葉寺、持福院、 万福院、源受院、福泉寺、延命院、 就梅院、慈眼院、聖福寺、長全寺、 宋吉寺、松徳院、曹流寺、全泉寺、 光真寺、大住寺、照遠寺、本正寺、 賢隆寺、光円寺、教順寺、清水寺、 東光寺、伝光寺、極楽寺、誓願寺、 瑞宝寺、宝蔵寺、尋盛寺、寿経寺、 阿弥陀寺、広小路神明											
天王（田中町）					●																	
天王（久證寺北）					●		●	●	●													
天王（久證寺南）					●		●	●							●							
山神（本町）					●		●	●	●													
天王（鍋屋）					●		●	●	●													
水天（鍋屋）					●		●	●	●		光専寺					●		●	●	●	2	
山神（寺野）					●		●	●	●		真福寺					●		●	●	●	2	
天王（順礼橋）					●			●			東勝寺、正願寺、八幡（正願寺）、 宝幢院、八幡（宝幢院横）					●		●	●	●		
庚申堂（外町）					●						真教寺（信教寺）					●		●	●	●		
天王（上条）							●				蓮忍寺、自閑堂、阿弥陀堂					●		●	●			
神明（朝日）							●				清涼寺ノアト					●		●	●			
神明（材木町）							●		●		庚申塚ノアト					●		●	●			
神明（外町）							●				虚空蔵堂					●			●			
天道（養林寺付近）							●	●			浄念寺跡						●					
天王（養林寺付近）							●				大智院							●		●		
薬師（養林寺付近）							●	●			善光寺如来							●	●	●		
浅間（養林寺付近）							●	●			真行院							●				
総見院		●	●	●	●	●	●	●	●	2	六地藏							●				
長光寺		●				●					修験養光院								●	●		
清涼寺		●	●		●	●	●	●	●	2	修験吉祥院、正林寺、パンシウジ、 津島所										●	
亀翁寺		●				●					正光院、玄海寺、西光院、長福院、 久遠寺、大乘院、政秀寺、浄久寺										2	

記述のあるものに●を記入した